

**情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会
CISPR B 作業班（第 10 回）議事要旨（案）**

1 開催日時：平成 27 年 12 月 7 日（月） 14 時 00 分～16 時 00 分

2 開催場所：中央合同庁舎 2 号館（総務省） 8 階 第 1 特別会議室

3 出席者（順不同）

【構成員】清水主任（首都大学東京）、吉岡主任代理（富士電機）、川崎主任代理（鉄道総研）、相川構成員（電事連）、井上構成員（JEMA）、井上構成員（KEC）、大嶋構成員（NHK）、金子構成員（日本溶接協会）、橘高構成員（ARIB）、木下構成員（JEITA）、久保田構成員（TELEC）、栗原構成員（JMTBA）、田島構成員（NTT-AT）、塚原構成員（日産自動車）、中村構成員（鉄道総研）、林構成員（三菱電機）、宮島構成員（電中研）

【事務局】総務省：杉野課長、澤邊電波利用環境専門官、川口電波監視官、野村係長、小栗官

4 議事概要

(1) 交代した構成員の紹介及び挨拶並びにオブザーバの紹介が行われた。

(2) 塚原構成員に主任代理に就任いただくことになった旨の周知が行われた。

(3) 事務局から配付資料の確認が行われた。

(4) 前回議事要旨案について、修正意見等あれば 1 週間以内に事務局まで連絡することで承認された。＜資料 10-1＞

(5) 吉岡主任代理から CISPR ストレージ会議 SC/B 結果報告（案）及び CISPR ストレージ会議 SC/B WG1 審議結果（案）について、川崎主任代理から CISPR ストレージ会議 SC/B WG2 審議結果（案）について、それぞれ報告が行われた。また、WG1 の結果報告（案）のうち WPT について久保田構成員から補足説明があった。＜資料 10-2-1 から 10-2-3＞

以上の報告を受けて、質疑応答が行われた。質疑応答におけるポイントは以下のとおり。

- ・ SC/B の審議項目 6.1 において、SC/A にて CD 文書の発行が予定されているとの記述があるがスケジュール感は。

→DC 文書が今回のストレージ会議において検討され、この意見を反映させて来年の 4 月までに CD 文書が発行される。これに対する各国の意見の検討は来年の会合に行われる予定である。

- ・ SC/B の審議項目 6 に WG1 副コンビーナと記載があるが。IEC の規定変更により WG1

セクレタリに変更された。そのため修正する必要がある。

→了。

- ・電波利用環境委員会の資料とする際、WG1 及び WG2 の内容は B 小委員会と合わせるか。
- ・WG2 の審議項目 9 について、次回会議の開催日が 10 月 3 日となっているが、正しくは 11 月 3 日である。

→修正する。

- (6) 電波利用環境委員会報告（案）について、清水主任から説明が行われ、質疑応答の後、作業班において了解が得られた。＜資料 10-3-1、資料 10-3-2＞
質疑応答におけるポイントは以下のとおり。

- ・タスクフォースの名称が TF-GCPC から TF-SPC 担った背景を説明すべきでは。
→名称及び対象機器等の補足説明をする。また SPC の正式名称も追記する。
- ・PLC について SC/B 内の実情は如何。SC/I では検討しないこととなっているが。
→SC/B には PLC 分野の専門家がいなかったため積極的な動きはない。以前シアトル会議において、韓国の国内委員が WG2 においてスマートグリッドを検討したいとの主張があった。しかし、それ以降特段話題に上がっていない。スマートグリッドだからといって新規格を策定する必要はなく現企画で対応すれば良いとの考えである。

- (7) その他

- ・本作業班の議論を踏まえた資料の修正期限は、本日から 1 週間までを目途に事務局宛てに送付することとなった。
- ・本日の審議結果をもとに、12 月 22 日の電波利用環境委員会において、ストレージ会議の結果報告について説明することとなった。
- ・次回の開催については、主任と別途調整して事務局から連絡することとなった。